平成二十七年十一月投句　【武蔵寺　天拝山山麓】

天守閣小さく威を張りゐのこづち
城垣の勾配にあり秋の声　勝利
帰り花久女多佳子の句碑に佇つ

見送りて踵返せば時雨来し
風はらみきしむ幟や神の留守　佳与子
柴漬を等間隔に沈め置く

落葉踏む音と遊具のきしむ音
朴落葉小さな谷を埋めつくし　節子
いつからか石蕗の花咲く庭となり

切支丹墓地へと石蕗の花明り
新蕎麦と貼紙をして立つ亭主　光子
菊活けて丸山花月灯のこぼれ

山茶花の庭に稲荷社祀られて
町名の残る古地図や石蕗の花　真理子
名島門抜けし城跡樗の実

神渡し軍艦島に立つ祠
潰えたる立坑口に秋の風　由紀子
高塀は花街の名残り実千両